

# 2010 関西トレセン U-14 リーグ第 1 節活動報告

【報告者】 土井和則（和歌山県トレセンスタッフ）

日 時：2010年 5月23日（日）

会 場：堺市立ナショナルトレーニングセンターS10 ピッチ(人工芝)

和歌山県トレセン U-14 参加選手			
背番号	氏 名	ポジション	所属チーム名
1	藤 田 祥 馬	GK	ミラグロツソ海南SC
2	西 川 拓 良	MF	岩出FC. AZUL
3	南垣内 萌 生	MF	FC和歌山VIVO
4	田中エリキ優一	FW	セレッソ和歌山 U-15
5	平 田 朋	MF	FC和歌山VIVO
6	上 須 啓 太	DF	セレッソ和歌山 U-15
7	水 田 泰 斗	DF	岩出FC. AZUL
8	狗 巻 遼	MF	ミラグロツソ海南SC
9	大 野 聖 人	MF	セレッソ和歌山 U-15
10	吉 田 創 信	FW	岩出FC. AZUL
11	上 野 僚 平	MF	白浜町立 富田中学校
12	梶 川 恭 佑	MF	田辺市立 東陽中学校
13	岩 橋 佑 真	FW	FC和歌山VIVO
14	山 本 和 杜	DF	岩出FC. AZUL
15	木 村 涉	FW	ミラグロツソ海南SC
16	岩 永 響	GK	岩出FC. AZUL
17	宮 田 日 向	FW	岩出FC. AZUL
18	加 佐 怜 人	MF	セレッソ和歌山 U-15

※13番 岩橋佑真 怪我のため欠席

テーマ：攻撃・守備とも良い準備をする、攻守の切り替え

攻撃：簡単にボールを失わない

3ラインを保つ

空いたスペースのケア

on、off 常にゴールを意識して目指す

優先順位を考える

裏を狙う

守備：1対1で負けない

1stDF 決定、チャレンジ&カバー

高い位置で積極的に奪う、30分間続ける

インターセプトを狙う

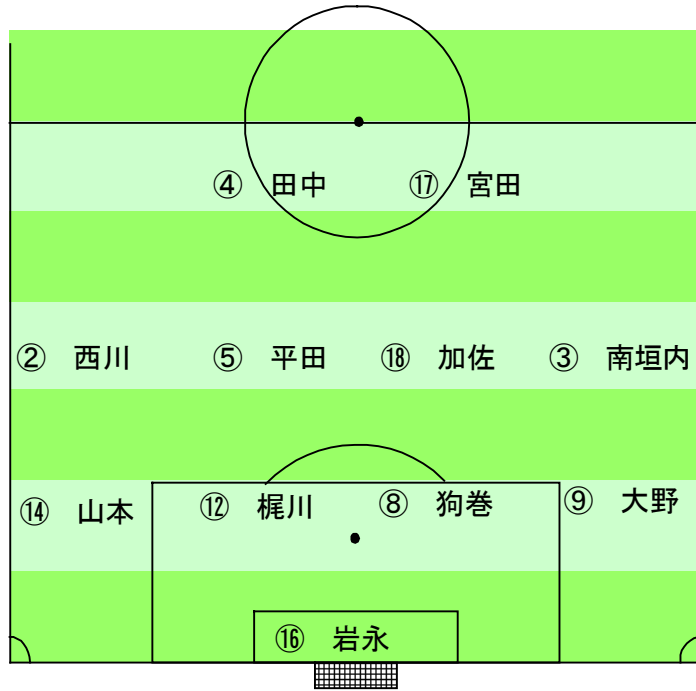
相手を簡単に前に向かせない

FW守備時、縦の関係を意識

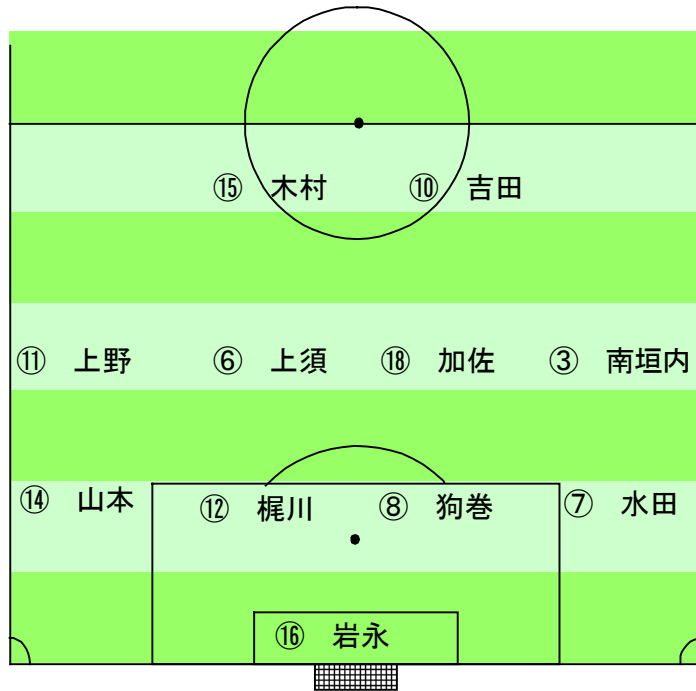
11:00 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン U-14 対 京都府トレセン U-14

0  $\left[ \begin{array}{cc} 0 & - & 3 \\ 0 & - & 0 \end{array} \right]$  3



《30分》



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	② 西川	⑪ 上野	
30分	④ 田中	⑮ 吉田	
30分	⑤ 平田	⑥ 上須	
30分	⑨ 大野	⑦ 水田	
30分	⑰ 宮田	⑩ 吉田	

〈得点〉

時 間	チー ム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グラウンダーパス ◯浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
1 1分	京 都	⑦	(左)⑧～→(中央)⑩→(中央)⑦左足 S
2 0分	京 都	⑩	パ スカット(中央)⑩右足(ミドル)S
2 7分	京 都	⑩	(中央)⑧ ◯(左)⑩→(中央)⑩右足 S

【成果】

○ゴール前の粘り強い守備、特に相手シュートに対してのブロック。

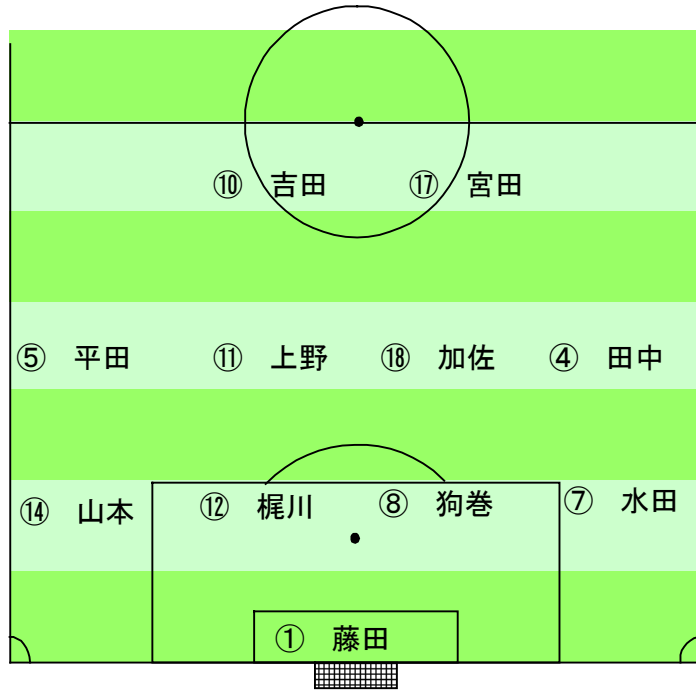
【課題】

- ボールを奪うシーンは数的有利な状況や相手のミスによるものが多く、インターセプトや1対1でボール保持者を追い込んで奪うシーンは少なかった。
- やられないことも大事だが、自分たちが攻撃権を得るためにゾーンに関係なくもっと積極的に奪いに行く姿勢がほしい。
- CBが上がった時にVoが下がるのか、SBが1枚が中に絞るのかりスクマネジメント。
- 負けている状況で残り時間わずかな場面でも1人のFWに対して3人のDFで対応するなど、プレーで表現できていない。
- ゴール前でサイドに展開された時、逆サイドの選手が中央への絞り込みが甘く、ゴール前中央で相手選手をフリーにしてしまう。
- ロングまたはミドルシュートに対してのファーストディフェンダーやディフェンスラインの対応ができない。
- ボランチのバランスが悪く守備の厚みが作れず、中盤で相手にスペースを与えてしまう。
- 中盤が下がり、FWとの距離をあけすぎない。ブロックをつくりスペースを埋め、中盤で相手にスペースを自由に使わせない。
- 守備から攻撃に切り替わった時、ボールを失わずに積極的に前へ攻め上がり、ゴール前に人数をかけたアグレッシブな闘いができない。
- 観る、ボールに寄る、パスしたら速くサポートすることが習慣化されていない。
- パスの受け手側の意識が低く優先順位に基づいてアクションする習慣が乏しいため結果的にゴールを目指してサポートする選手が少ない。
- ボール保持者の状況を観て、優先順位を理解した上で動き出すタイミングを計り選択肢を持たせる関わりを持つことが課題。
- サイドバック、サイドハーフの位置が低く攻撃参加(ビルドアップにかかわったり、オーバーラップなど)があまり見られない。
- サイドチェンジやFWを追い越すオーバーラップ、壁パスなどのコンビネーションを使いながらサイドを崩す攻撃があまり見られなかった。
- 各選手が違うポジションで受けることを考えて、ボールに寄って受けたらシンプルにパスして自分はボールを超えて高い位置にランニングしてできたスペースに他の選手が入りパスコースを増やして相手に狙いをつけさせないようにすることが必要。
- 幅と厚み、創り出した瞬間に顔を出しボールを引き出すことによってボールの動きがスムーズになる。
- パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手はボールから遠いところでマーク、スペースを観てポジションを取りアクションを起こす。
- 攻撃の優先順位を共有し、ディフェンスラインの裏を狙うダイレクトプレーの意識

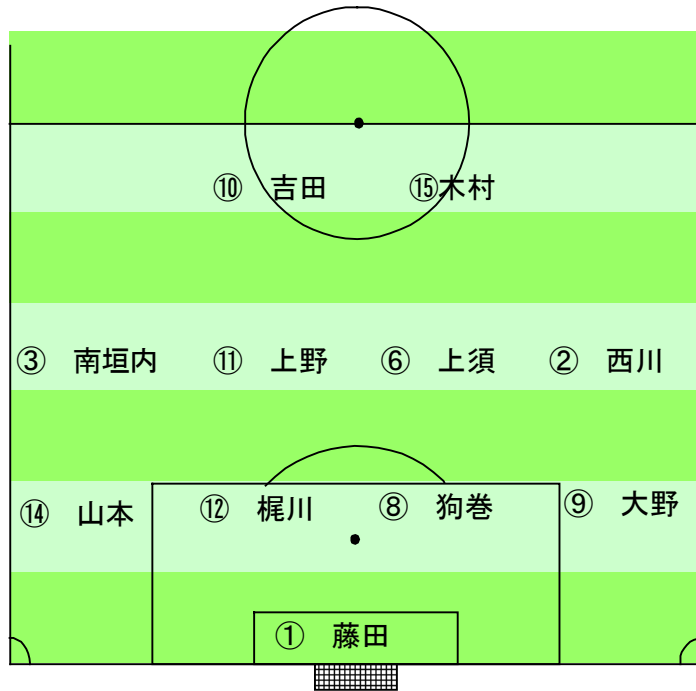
13 : 30 kick off (30分-5分-30分)

和歌山県トレセン U-14 対 京都サンガ U-15

1  $\left[ \begin{array}{cc} 0 & - & 2 \\ 1 & - & 3 \end{array} \right]$  5



《30分》



〈交代〉

時間	OUT	IN	備考
30分	④ 田中	②西川	
30分	⑤ 平田	③南垣内	
30分	⑦ 水田	⑨ 大野	
30分	⑰ 宮田	⑮ 木村	
30分	⑱ 加佐	⑥ 上須	

〈得点〉

時 間	チーム	得点者	得点経過 (～:ドリブル →:グランダーパス ∩浮き球 パス ×:混戦 S:シュート H:ヘディング)
1 8分	サンガ	⑩	(左)CK⑭∩(中央)⑩右足S
2 1分	サンガ	⑪	ハ°スット(中央)⑪～右足S
3 9分	サンガ	⑩	GKハ°ミス(中央)⑩～右足S
4 1分	サンガ	⑫	(中央)⑩→(右)⑫右足S
4 3分	サンガ	⑫	(左)⑩～右足S
4 4分	和歌山	⑩ 吉田	GK∩ハ°スット(中央)⑩～右足S

【成果】

【課題】

- 相手のサイドチェンジに対しても、最終ラインがスライドしながらマークを受け渡すことができず結果的にマークのズレが生じていた。
- 相手がボールを下げたり、長いボールが入ったらマークする相手を見ながらラインを押し上げたり、3ラインの距離を保ちながらラインコントロールしてバランスをとりいいポジションをとる。
- ゴール前の状況を観ながらのクロスの精度。
- 味方との関係から幅と深さを意識したポジションをとる。
- ボールと自分だけの関係が多く、ボールの移動中にできるだけゴールや遠くにいる選手、空いているスペース(逆の方向性)を観ることができていないため選択肢が少ない。
- パスの出し手はもっと遠くを観ることと、受け手はボールから遠いところでマーク、スペースを観てポジションを取りアクションを起こす。